

狭山市では、施設や道路などのハード面ではなく、今後のまちづくりに生きるソフト面でのレガシーを残したいと考えています。そのなかでもっとも力を入れていることが、今後狭山市、さらには日本を背負っていく子ども達に、オリンピック・パラリンピックならではの体験を通し、心や意識の成長を促していく「次世代育成」です。

2017年から市内の小中学校全校で、オリンピックやパラリンピアンが実際に講師となって授業を行う「あすチャレ！スクール」、「JOCオリンピック教室」を開催しています。どちらも競技体験と講義を1セットとして行うもので、「あすチャレ！スクール」では心のバリアフリーや共生社会について、「JOCオリンピック教室」ではオリンピックの3つの価値「卓越性(Excellence)」「友愛(Friendship)」「尊重(Respect)」について学び、自分たちの日常生活との関わりについて考えます。自分自身で目標を掲げてひたむきに努力し、夢を叶えてきたアスリートと直接交流することは、子ども達の今後に必ず役立つものであり、東京2020大会終了後もこのプログラムは継続したいと思っています。

また、市内でオリンピックが開催される貴重なチャ



市内中学校での「JOCオリンピック教室」

ンスなので、全ての市民に何かしらの形で大会に参加してもらいたいと思っています。その1つとして、市が主催するオリンピック・パラリンピック関連イベントがあります。8月3日にもオリンピック開催1年前イベントとして「# T shot SAYAMA 2019」を開催し、1500人以上の方が来場しました。昨年の開催2年前イベントでは参加者500人だったことを考えると、着実に認知度、興味が高まっていると実感しています。今後も、市民がどのように東京2020大会に関わりたいかを考え、その場を提供していきます。

そして、来年の8月8日には、市のオリンピック事業の集大成として狭山市民会館で「ライブサイト」を開催します。その日は、ゴルフをはじめ、バレー、空手、バスケ、野球など多くの人気競技でメダルが確定します。「ライブサイト」では、競技チケットを持たない方にも大会を経験してもらえるように、大型スクリーンでの競技中継、ステージイベント、競技体験などを計画しています。15万人全ての市民がオリンピックを体感し、参加し、楽しい記憶が残ればと思います。さらに、大会を契機に狭山市の魅力や誇りを再認識し、狭山市民としてのシビックプライドを醸成していければと思います。



市内小学校での「あすチャレ！スクール」

## オリンピックを通して、在住外国人との共生社会実現のために

狭山市 市民部 市民文化課 主査 小澤 秀紀さん

オリンピック開催期間の訪日外国人を対象とした「狭山流おもてなしプログラム(仮称)」を作成するため今年の3月に『東京2020に向けた“おもてなし”体験講座』を開催し、狭山茶体験講座、外国語茶道体験、おもてなしボランティアの募集を行いました。35名の申し込みがあり、おもてなしボランティアのコアメンバーとして育成を始めたところです。このメンバーには語学力や着付けの技術、ボランティア経験を活かしたい方など様々な方がいます。9月にはリハーサルとボランティアの実践を兼ねて、『狭山流おもてなし向上プロジェクト』講座を開催し、日本文化体験プログラムを行います。そして、11月の「さやま大茶会」では、茶道、折り紙、邦楽のワークショップのほか、英語での点茶体験を実施し、狭山の伝統行事を外国人も一緒に楽しんでもらいたいと思っています。また、点茶

体験ガイドを多言語で作成することも進めています。2020年以降も、茶道を知るコンテンツとして、そのガイドブックを活用していきます。

現在、市内には2,684人の外国人が暮らしています。中国、韓国、ブラジル出身の方に加え、近年はベトナム、ネパール、タイ出身の方も増えています。狭山市には工業団地が2か所あり、そこで働く技能実習生も多く、それぞれのコミュニティが構築されていますが、多文化共生社会の実現のためには、地域の中での居場所が必要です。オリンピックを機に整えた多言語文化体験コンテンツやボランティアグループを活用し、まずは楽しいイベントから参加してもらい、やさしい日本語でフォローしながら、共に集う場を提供し、交流を広げていければと思っています。